

国立病院機構熊本医療センター

No.171



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

第31回 開放型病院連絡会開催が迫りました

平成23年度第1回(通算31回)の国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が、来る9月6日(火曜)午後7時より、熊本県民交流館パレアホール(鶴屋東館10階)で開催されることになりました。当センターの東日本大震災医療支援報告、病院からのお知らせ、総合討論に続きまして、7階鶴屋ホー

ルにおきまして意見交換会を予定しております。多数の先生方、看護部門、事務部門、MSWの方などスタッフの皆様がご参加いただきますようお願い申し上げます。当日、会場にて新規登録医の受付もできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付け下さい。(副院長 河野 文夫)

第31回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会

日時：平成23年9月6日(火)午後7時00分～

会場：熊本県民交流館パレアホール(鶴屋東館10階)

内容：全体会議

1. 東日本大震災医療支援報告
2. 病院からのお知らせ
3. 総合討論

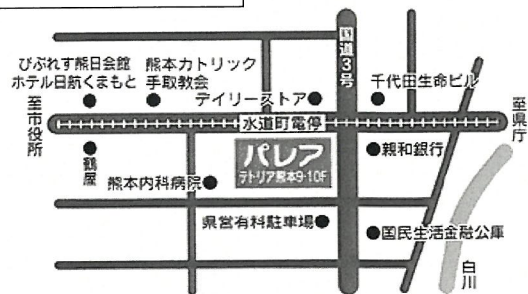
意見交換会 鶴屋東館7階 鶴屋ホール

【参加申込先】

国立病院機構熊本医療センター管理課

電話 096-353-6501 内線5690(高倉・横尾)

住所 〒860-0008 熊本市二の丸1-5



基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

VOICE

登録医の声

「ジレンマ」

医療法人 邦真会

桑原クリニック

院長 桑原 邦治



「いつも御世話になります」これが私の紹介状の最初の決まり文句です。開業して20年、これまで何回使ったことでしょうか？

開業医にとって紹介しやすい病院とは、自分が以前に勤務したことのある病院や現在、勤務されている先生をよく知っているなどが条件だと思っています。そういう意味で、国立病院の腎臓内科の先生方

にはいつも甘えて大変御世話になっています。ただ、国立病院機構熊本医療センターと書くのは、面倒な気もしますが・・・。

開業までの10年間は、勤務医として大学病院を初め、いくつかの病院で仕事をしました。その時は、紹介された患者さんを診るほうの立場で、内心、開業の先生はいいなあ、重症例や面倒な患者さんは、送ればいいんだからと思いながら、仕事をしたものです。今、逆の立場になっているわけですから、申しわけないという思いが強いのも已むを得ません。しかし、現実的に自分ですべてできないのも事実です。時に最近はこの病院も、とても開業医に対して気を遣って下さる気がして、一層その思いを強く感じています。これからも甘えて御世話になることでしょうか。どうぞ宜しくお願いします。その他、とてもまじめとはいえない私が、患者さんに対して、これはいけない、こうなさいと指導しなければいけないこともジレンマを感じます。最近では医者としての義務だから仕方ないかと割り切ってはいますが・・・。

その他、様々なジレンマを抱えて生きています。しかし、人間らしくていいのでしょうか。これからも、自分らしく正直に生きていきたいと思っています。

どこからか患者さんの声が聞こえてきそうです。“20年前の暇そうにしていた先生が一番良かった”と。

新町地蔵祭りに参加しました

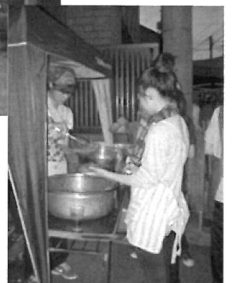
7月24日新町地蔵祭りが開催されました。学生は一新二町内と段山の2つの地区の祭りに参加しました。

一新二町内地蔵祭では「よさこいソーラン」を踊りました。よさこいソーランの参加は今年で2回目になります。昨年の踊りを受け、今年から8名のよさこいサークルが発足し練習を重ねていました。明八橋に新町の方々が見守る中、学生は楽しそうに踊っていました。「楽しかった。来年は振りを替えて踊りたい。」という発言もあり、楽しみにして下さる地域の方のために来年に向けて練習しようという思いを新たにしていました。

段山地蔵祭りは、20名の学生ボランティアが参加しました。今年で3回目の参加になります。1. 2年生合同で「ミニSLの乗車整理」「チケット販売と血圧測定」「焼きそば・ラーメン・生ビールの販売」を行いました。2年生がリーダーシップをとり、決められた役割以外でも「何かすることは無いか」と積極的に担当者に指示を仰ぎながら活動してしま



▲ 一新二町内地蔵祭で「よさこいソーラン」



段山地蔵祭 焼きそば販売 ▶

た。日頃の学校生活では見えなかった学生の姿を見て、とても頼もしく感じました。

新町地蔵祭を通して、学生は地域の活動を知るとともに、地域の方とのコミュニケーション、接遇・接客、調整など様々なことを学んだようです。学生がこの経験を今後の学校生活に役立てることを信じてるとともに、このような参加の機会をいただき、感謝申し上げます。（看護学校教員 星野 睦美）

UCLA 消化器内科カウニッツ教授の研修を終えて

国立病院機構熊本医療センターでは、去る8月17日から20日までカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)消化器内科のカウニッツ教授をお迎えして、研修医を教育していただきました。今回のような北米の指導者を招聘しての研修医教育は平成17年から初めてこれ6年目になります。

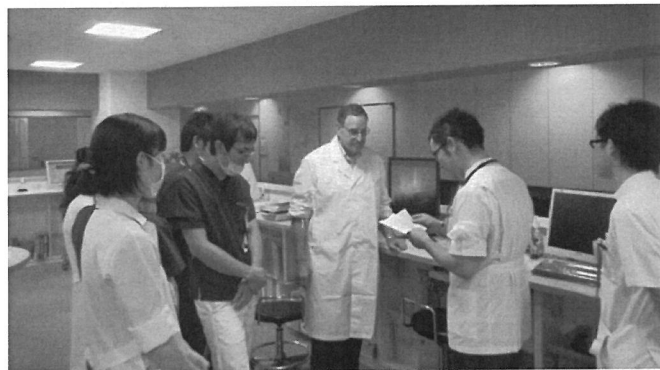
今回も症例発表、病棟回診、講義など盛りだくさんの内容でした。症例発表は主に2年目研修医に行ってもらいましたが、昨年の経験からか、きちんと自己紹介を行い、時にはジョークを交えながら、スムーズに発表できていました。研修医のコミュニケーション能力は年々上がってきています。カウニッツ先生は、さまざまな角度から医学的な助言をされるとともに、不適切な英語は適宜修正されました。病棟回診では、1年目研修医が苦勞しながらも懸命に症例の提示を行いました。この他、特別講演「英語論文を出版する方法」を行っていただきました。カウニッツ先生はGastroenterologyやDigestive Disease and Scienceなどの有名医学雑誌の編集者をされていますが、論文を採択する立場から、どのように論文を書くべきかを懇切丁寧に教えていただきました。特に日本人が陥りやすい判読不能な英語を、どのように修正したらよいか、実例を挙げて教えていただきました。

今回の研修は過去に行った研修に比べて、最も内容の充実したものであったと思います。今後もこのような北米指導者による研修医教育を継続していきたいと思っています。(臨床研究部長 芳賀 克夫)



8月17日から20日までの4日間、カウニッツ先生が当院にお見えになり、1年次研修医は回診での症例報告とグループ発表を、2年次は各自症例発表の機会をいただきました。英語と発表の双方に苦手意識のある私にとって、英語の発表という課題は中々に気重的なものでした。しかし実際に準備を始めてみたところ、スライド作成、原稿作成ともに1年次の時よりもスムーズになったことに驚き、同期と自分たちの成長を密かに喜ぶことができました。1年次にヴァンス先生のプレゼンテーションに関するレクチャーを受け、ヘーゲン先生、カウニッツ先生の前で発表させていただいた経験が、私たちにとって大きな糧になっていたことに改めて気づくことができた瞬間でした。伝えたい部分を明確にすることなど、皆それぞれにこれまで学んだことを取り入れながら、発表に取り組むことができたように思います。発表の際は大変緊張しましたが、カウニッツ先生は私たちのつたない英語に熱心に耳を傾け、温かい雰囲気の中で質問やディスカッション、レクチャーをしてくださいました。英語力はもちろん、プレゼンテーションそのものに関しても多くの課題が見えてきたと同時に、文法や形式に囚われすぎず、伝えようという明確な意思を持って対応する柔軟性や度胸の大切も感じる事ができた4日間でした。また、症例の内容に関しても、アメリカと日本の診断・治療法の違い等を交えながらご指導いただき、広い視野を持って医療に取り組むことの重要性和興味深さを教えられました。

日常生活の中で英語に接する機会の少ない私たちにとって、今回の研修は、医師として、また、社会人として大変貴重な経験となりました。このような機会を与えていただいたことに深く感謝すると同時に、今回の経験を今後に生かしていきたいよう精進していきたいと思っています。(2年次研修医 野尻 奈央)



日本精神科救急学会奨励賞を受賞しました



精神科/救命救急部

橋本 聡

このたび、第18回 日本精神科救急学会において学会奨励賞を受賞いたしましたのでご報告申し上げます。平成22年10月14日と15日の両日、大阪国際会議場で開催された学術総会にて発表された多数の演題の中で5名に選考され、奨励金まで授与されたことは大変な栄誉でした。「プレホスピタル救急医療における精神科事案の特徴」と題し、熊本市消防局のご協力を得て実施したアンケート調査から、救急医療における身体的急性期とは違って精神心理的急性期について、救急隊

員は「対処の仕方も受け入れ機関への申し送り方もわからない、自信を持って対処することが難しい」、結果として「なかなか興味が持てない」と感じている現状が浮き彫りになったことを発表しました。学会テーマである「本音で語ろう、精神科救急」に添って、救急医療における精神科医療の問題点の一つを明らかにしたことで、救急隊員の精神科救急医療に関する意識調査に新規性と今後の教育的展望を認められ受賞に至ったと考えています。これはBLS、ACLS、JATECといった先進的な他領域に倣って我々精神科スタッフがソフト・ハード面で救急医療に歩み寄っていかねばならないことを示していますし、全国学会でこの問題提起が受け入れられたことは喜ばしいことです。ひとえに日頃から一緒に苦勞している救急隊員、救命部スタッフの方々のご助力のおかげです。ここ熊本から現状改革につながる臨床的努力を続けていこうと気持ちを新たにしております。この場をかりて、調査にご協力いただいた関係諸氏に深く感謝申し上げます。

病棟紹介〈6〉

6 東 病 棟

消化器を主体に、胸部、頸部など外科手術患者に関する診療を実施しています。

また、術前、術後の化学療法、放射線療法の取り扱いも行っています。

予定手術に加え、急性腹症に伴う緊急手術の症例も多く、自病棟での手術に関連する患者の入院受け入れがスムーズに行えるように調整に努めています。

22年度末セントラルモニタリング設備が整備され、術後管理が充実しました。

19床の有料個室と、重症個室3床を有し周手術期を安楽に過ぎて頂ける生活環境が整えられています。

(6 東病棟師長 石坂 育子)



6 東病棟のスタッフ



HCU (High Care Unit)

6 東病棟だけにあり、スタッフステーションから常に患者様の状態が観察できるようになっています。



スタッフステーション



ヘリコプター搬送時の通路になります。



ダイルーム

2011 診療科紹介 (40)

耳鼻咽喉科

診療内容と特色

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域は、命はもちろん、人が人として人間らしく生きることができるための機能を有している器官や臓器を取扱う重要な診療科です。

当科では耳鼻咽喉科領域全般を扱いますが、なるだけ手術例を中心に診療をすすめてまいります。耳科領域では慢性中耳炎、中耳真珠腫など、鼻科領域においては特にアレルギー性鼻炎では、後鼻神経切断術、下鼻甲介骨切除術など手術療法も取り入れていこうと考えております。また頭頸部領域では良性疾患を中心に、悪性疾患では放射線化学療法、手術を組み合わせた集学的治療を行います。

患者さんと同じ目線で、わかりやすい説明を心がけています。ご本人やその御家族に絵や図を用い、充分納得していただいた上で治療を行います。

診療実績

表 耳鼻咽喉科手術症例数

	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度
手術症例数	383名	376名	372名	248名
鼓室・鼓膜形成術	159名	132名	89名	61名
内視鏡下副鼻腔手術	53名	58名	63名	60名
頭頸部腫瘍	89名	95名	101名	60名
(うち唾液腺腫瘍)	29名	27名	41名	18名
口蓋扁桃摘出	24名	28名	28名	20名
喉頭微細手術	25名	28名	36名	6名



医長
上村 尚樹
耳鼻咽喉科全般

医学博士
日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本耳鼻咽喉科学会補聴器適合判定医師
日本気管食道科学会専門医
ICD:インフェクションコントロールドクター
日本アレルギー学会会員

自己紹介

平成23年3月より耳鼻咽喉科を担当しております上村尚樹と申します。平成2年熊本高校、平成8年に大分医科大学（現大分大学医学部）を卒業し、以後これまで大分にて耳鼻咽喉科医として従事してまいりました（前任地：国立病院機構 別府医療センター）。専門は地方大学の特徴であります耳鼻咽喉科一般ですが、その中では頭頸部外科に興味をもって仕事をしてまいりました。

40歳までには熊本に帰る、と以前から自分の心の中で決めていたところに今日縁あって熊本医療センターで仕事をさせていただくことになりました。医師不足がさげられるなか耳鼻咽喉科も例外ではなく、当院耳鼻咽喉科も私1人であり、できる医療は限られておりますが、スタッフと力をあわせて、できる範囲で何とか皆さんのお役に立てればと思います。中耳手術、鼻科手術、頭頸部手術、頭頸部感染症まで、自分が今まで経験で得た技術・知識すべてを発揮して、20年ぶりの我がふるさと熊本の地で地域医療に貢献していく所存です。現在診療を開始して5ヶ月が経とうとしておりますが（7月現在）、徐々にですが紹介患者数、手術症例数も増えております。どうぞよろしくお願いたします。

ご案内

手術などで対応ができない場合もありますので、急患の際は一度電話連絡をいただくと助かります。ご一報下さい。可能なかぎり対応いたします。

外来日：火・金 8:30～11:00

手術日：月・水 終日

検査日：木 終日

最近のトピックス**4次元CT血管撮影による血流評価**

放射線科医長

荒木 裕至

2009年9月に熊本医療センターは現在の新病院に移設されましたが、移設に伴いCT装置も更新となり、128スライスCTという超多列型CTを導入しています。このCT装置と同時に導入された64スライスCTとの2台体制により、当院のCT件数は従来にも増して大幅に伸びています。

ところで、当院の128スライスCTには特徴的な検査方法として、4次元CT血管撮影というあまり聞き慣れないと思われる撮影方法があります。

心、大血管をはじめとした血管系の評価においては、最近では造影剤を使用した3次元CT血管撮影(3D-CTA)により、比較的 non-invasive に評価が行われてきました。近年の技術の進歩にて、3次元CTを中心とした術前・術後の評価において、その解剖学的構造は十分に評価できていましたが、関心領域の血流評価は

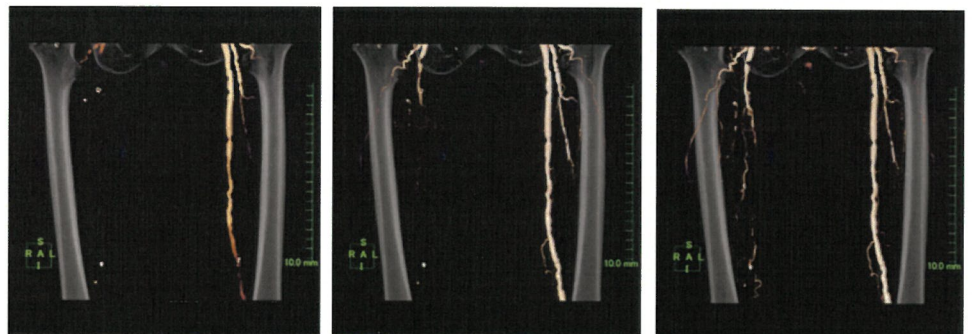
経験則、ないし血管造影所見と合わせた総合的評価が必要でした。しかし、近年のCTの多列化に伴う時間分解能の向上により、4次元CTという新しい検査が可能となり、今までの常識を覆す画期的な画像が得られるようになってきています。

4次元CTとは従来の3次元CTに時間軸を加えた撮影方法のことを意味し、経静脈的に造影剤を投与し、経時的および連続的に3次元撮影を行い、血管内を造影剤が通過していくのを経時的に撮影すること(4次元CT血管撮影/4D-CTA)で、関心領域の血流評価が可能となります。これにより、大血管疾患をはじめとした術前・術後の血行動態を、CTで評価できるようになってきています。当院でも、循環器内科や心臓血管外科をはじめ各診療科からの依頼で、適応となる疾患については随時この検査を行っていますので、症例などありましたら各診療科にご相談の上、ご紹介頂けますと幸いです。

撮影後は、4次元CTの解析を行うコンピューター画像処理装置で動画を作成します。この動画を用いた診断はもとより、医学的専門知識の少ない患者さんや家族に対しても動画によるインフォームドコンセントが可能となり、今後が期待される検査と思われます。

閉塞性動脈硬化症の3D-CTA

右浅大腿動脈は閉塞

右浅大腿動脈より末梢側の血行を4次元血管撮影(4D-CTA)で評価

右大腿部において、中枢側の血流遅延や末梢側における側副血行路の形成不良と血流低下を経時的に評価できる

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ57回

「糖尿病患者におけるsitagliptinの酸化ストレスに対する効果」

腎臓内科 梶原 健吾



本邦において透析導入患者は増加する一方で、この透析導入の約半分は糖尿病性腎症によります。糖尿病性腎症に対する治療は、RAS系阻害薬を中心とした血圧コントロール、スタチン製剤による脂質コントロール、エリスロポエチン受容体アゴニストによる腎性貧血コントロールにより大幅に改善しつつあるものの、食事療法・運動療法の上での各種薬物による血糖コントロールは不可欠です。また、最近の研究結果から、腎障害の発症・増悪並びに脳心血管疾患の発症と酸化ストレスは密接な関連があることが示されています。

現在、sitagliptinによる血糖コントロールの改善並びに血糖関連項目（HbA1c、体重等）に対しては良好な報告が相次いでおり、合わせて投与方法の検討もなされています。しかし、糖尿病性腎症に対しては、微量アルブミン尿への影響が海外での治験データより報告されているものの特にそのほかのデータは報告されていません。

また、酸化ストレスや組織レニン・アンジオテンシン系の観点からも報告がありません。関連が認められるならば、単なる血糖コントロールを超えて生命予後改善の可能性や医療経済的に問題となる腎・心・脳・網膜などの臓器障害予防に対する可能性が示唆されます。

以上の観点から、sitagliptin投与により血糖コントロールのみならず、酸化ストレスや組織レニン・アンジオテンシン系が改善されるかどうかを評価し、DPP4阻害薬の腎・心・脳・網膜症などの臓器障害に

対する有用性が示唆されるかを観察研究の形で研究することといたしました。

対象

食事療法・運動療法にてコントロール不良の2型糖尿病患者で文書にて同意を得た患者で、微量アルブミン尿陽性の患者。

方法

試験期間：3か月

上記条件を満たす患者において、sitagliptinを3ヶ月間50mg/日投与し、その他の内服薬はそのまま投与継続する。

現在登録・測定・解析を行っているところです。

シタグリプチンの酸化ストレスに対する効果

対象患者：

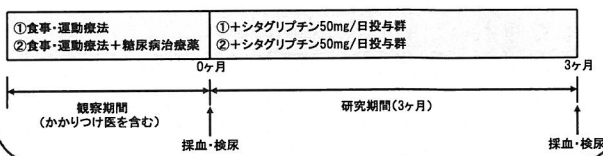
食事・運動療法にてコントロール不良で微量アルブミン尿陽性の2型糖尿病患者。

試験期間：3ヶ月

主要評価項目：3ヶ月後の尿中8OHdGの変化量

副次評価項目：3ヶ月後のHbA1c、空腹時血糖、HOMA-IR、HOMA-β

微量アルブミン尿・タンパク尿、Cre・eGFRの変化量、尿中アンジオテンシノーゲン



救急看護認定看護師を取得しました



救命救急センター看護師

矢津田 亜里沙

今回、私は2011年救急看護認定看護師審査に合格し、救急看護認定看護師を取得致しました。救急看護認定看護師とは、高度先進医療を担う救急医療ニーズにこたえて、救命技術から危機的状況にある患者及び家族への精神面の看護に至る幅広い救急看護領域の知識や技術に熟達し、的確な判断に基づいた確実な救命技術の実践や指導を行う看護師のことです。

当院は、救命救急センターを有し、地域の救急医療に力を入れています。今年の6月からヘリ患者搬送を開始し、緊急を要していた患者の救急搬送時間の短縮による救命率の向上や後遺症の軽減、へき地における救急医療体制の強化を目指しています。これまで以上に高度な医療が求められる中、私たち救急看護師の役割も多様化し、より専門性が求められていると感じています。救急看護認定看護師として活動をはじめたばかりですが、今後は救急に携わる看護師の知識や技術の向上に努め、より質の高いチーム医療が提供できるように努力していきたいと思っております。また、熊本県には6名の救急看護認定看護師がいますので、各病院や地域との連携を図り、熊本県の救急看護の質の向上にも努めて行きたいと思っております。

新任職員紹介



呼吸器内科医長

いま むら ふみ や
今村 文哉

平成23年8月1日付けで呼吸器内科に勤務させていただくことになりました、今村文哉と申します。

昭和61年に熊本大学を卒業し、熊本大学呼吸器内科(当時の第一内科)に入局後、主に熊本市市民病院、熊

本再春荘病院でお世話になり、大牟田天領病院を経て平成21年2月から平成23年7月まで熊本赤十字病院呼吸器科に勤務いたしておりました。

他科同様、呼吸器疾患も、感染症、免疫・アレルギー、腫瘍など多岐の病態にわたる上に、呼吸不全に対する呼吸管理などでは緊急を要する場合も少なくありません。広さと、速さをもとめられる領域で、さらに確実性を加えて、熊本を代表する救急病院である当院で、呼吸器科4人目のスタッフとして微力ながら精一杯頑張らせていただきますので、先生方には何かとご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

研修医レポート

臨床研修医

1年次 やぎ たいすけ
八木 泰佑



こんにちは。研修医1年目の八木泰佑と申します。研修医となって4か月が過ぎようとしており、少しではありますが仕事にも慣れてきたと感じております。それでもまだまだ皆さんにご迷惑をおかけしており、成長しなければ、と思う毎日です。

私は最初に外科を回り、現在は循環器内科でお世話になっております。今後は救急部、消化器内科、麻酔科、血液内科をローテートする予定です。

外科は私が研修医となって初めて回った科でした。

毎日朝から手術室に行き、手術が終わったら検査をして、空いた時間や夕方に病棟の業務を行って、と忙しくさせていただきました。手技としては開腹を経験させていただいたり、閉創の際に埋没縫合をさせていただきました。周術期管理や抗生剤の使用、病棟での処置など、後々のためになることも学ばせていただきました。清潔野は汚さないよう、いつも心がけます。

現在回っている循環器内科では、ほぼ毎日心臓カテーテル検査が施行されています。スワングンツカテーテル挿入の際の大腿静脈穿刺を経験させていただきました。何度も穿刺を経験させていただいたおかげで中心静脈カテーテルを大腿静脈から挿入する際に慌てず施行することができました。また、心筋梗塞や心不全の急性増悪など、どの科にいても緊急の対応が必要な疾患について経験することができました。基本的なことではありますが、心電図の読み方やエコー所見を指導医の方々から丁寧に教わっております。

救急外来での当直ではさまざまな疾患を学ぶことができ、いかに診断するのが難しいかを実感しております。まだまだ未熟で皆様にご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

臨床研修医

1年次 さいとう ゆういち
齋藤 雄一



こんにちは。研修医一年目の齋藤雄一です。私は最初の二ヶ月を血液内科で、現在は救命救急部でローテートさせていただいています。

血液内科では抗癌剤の扱い方に始まり、易感染性状態における抗菌薬の選択、中心静脈栄養など多岐にわたって学ぶことができました。また、看護師さんのためのセミナーなどにも参加させていただき、血液疾患という特殊な疾患の治療をするにあたって、医療スタッフの患者さんへの接し方がどうあるべきなのか学ぶ機会もありました。そういった意味でも血液内科での研修は初めての科として、理想的な科であったと実感しております。

救命救急部では三次救急病院の名の通り、切創から心肺停止まで様々な疾患を見ることができ、刺激的な毎日を送れています。主訴からどのような疾患を鑑別し、どのような検査オーダーを立て、治療はどうするか、瞬時の判断が求められる救急部には、常に緊張感が漂っており、そのような状況下での経験は頭に焼きつくものばかりで、密度の濃い研修となっています。

今までの約三ヶ月半を過ごしてきて、医学の幅の広さに早くも愕然とする今日この頃です。知識にしても、手技にしても覚えるべきことが数えきれず、困惑しています。ただ、身につけたことが、確実に目の前の患者さんのためになっていくのも実感しています。特に日勤、夜勤中の救急外来では研修医の役割や責任も大きく、緊張感をもって臨んでいます。

まだまだわからないことばかりで、周りの医療スタッフの方々にも迷惑をかけてばかりですが、周りから多くのことを吸収し、早く当病院の一員として役に立てよう頑張ってお参りますので、これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

研修のご案内

第30回 熊本がんフォーラム (無料)

日時▶平成23年9月8日(木)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

司会:城北胃腸科内科クリニック 川上 孝男 先生

「大腸がんの手術療法」

国立病院機構熊本医療センター外科医長

多森 靖洋

皆様のご来聴をお待ちしております。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長 芳賀 克夫 TEL:096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515 (直通)

第152回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】

日時▶平成23年9月12日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「高度の血小板減少を合併した肝障害の一例」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

田島 知明

4. ミニレクチャー「DPP-4阻害薬について」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長

藤本 和輝

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第69回 特別講演 (無料)

【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】

日時▶平成23年9月14日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫

「日本における心筋梗塞のエビデンス~二次予防から一次予防へ~」

熊本大学大学院生命科学研究部循環器病態学教授

小川 久雄 先生

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515 (直通)

第121回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】

【日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定】

日時▶平成23年9月15日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「SIADHを契機に発見された肺癌の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 柏木寧、嶋田さやか、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

2. 「ビッグナイド剤を極量(1500mg/日)まで増量して血糖コントロールが改善した2型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 嶋田さやか、柏木寧、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線5705

第15回 症状・疾患別シリーズ (会員制)

【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】

日時▶平成23年9月24日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:熊本市医師会

千場 博 先生

演題:「基礎疾患のある進行肺癌患者への抗がん剤治療」

1. 間質性肺炎

国立病院機構再春荘病院呼吸器内科

浦本 秀志 先生

2. 慢性肝炎

熊本市立熊本市市民病院呼吸器科医長

岸 裕人 先生

3. 慢性腎不全(透析)

国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長

柏原 光介

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第114回 救急症例検討会 (無料)

日時▶平成23年9月28日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「外傷」

国立病院機構熊本医療センター整形外科部長

橋本 伸朗

国立病院機構熊本医療センター形成外科医長

大島 秀男

国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長

大塚 忠弘

国立病院機構熊本医療センター外科部長

片瀨 茂

救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

2011年 研修日程表 9月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

9月	研修センターホール	研修室	その他
1日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
2日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
5日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
6日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
7日(水)	18:00~19:30 第70回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
8日(木)	19:00~21:00 第30回 熊本がんフォーラム 「大腸がんの手術療法」 国立病院機構熊本医療センター外科医長 多森 靖洋	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
9日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
10日(土)	14:00~16:00 第232回 滅菌消毒法講座 「中央材料部の構築と将来像」 聖マリア病院新規事業室 室長 高松 純		
12日(月)	19:00~20:30 第152回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
13日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:00 外科術前症例検討会 C1 17:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
14日(水)	19:00~20:30 第69回 特別講演 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 「日本における心筋梗塞のエビデンス ～二次予防から一次予防へ～」 熊本大学大学院生命科学研究部循環器病態学教授 小川 久雄		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
15日(木)		19:00~20:45 第121回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 【日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
16日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
20日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
21日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
22日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
24日(土)	15:00~17:30 第15回 症状・疾患別シリーズ 【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】 座長 熊本市医師会 千場 博 「基礎疾患のある進行肺癌患者への抗がん剤治療」 1. 間質性肺炎 国立病院機構熊本再春荘病院呼吸器内科 浦本 秀志 2. 慢性肝炎 熊本市立熊本市市民病院呼吸器科医長 岸 裕人 3. 慢性腎不全(透析) 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介		
26日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
28日(水)	18:30~20:00 第114回 救急症例検討会 「外傷」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
29日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
30日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター-読書室 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)